【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成22年5月6日(2010.5.6)

【公開番号】特開2008-84302(P2008-84302A)
【公開日】平成20年4月10日(2008.4.10)
【年通号数】公開・登録公報2008-014
【出願番号】特願2007-210889(P2007-210889)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｔ　15/00　　(2006.01)
Ｇ０６Ｔ　 3/40　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｔ　15/00　　３００
Ｇ０６Ｔ　 3/40　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成22年3月17日(2010.3.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９０】
画素Ａのみ生成するためには、図１４に示すＰ１～Ｐ５の係数が必要となる。Ｐ１は、１次のウェーブレット係数の高周波成分である各領域ｂ～ｄに、１つずつ存在している。Ｐ１の座標値は、画素Ａの座標値ｘ、ｙをそれぞれ２で除算した値となり、Ｐ１の座標は、図１４（ａ）に示すように（Ｕｘ／２、Ｖｙ／２）となる。なお、除算した値が整数ではない場合、小数点以下を切り捨てるものとする。また、座標（Ｕｘ／２、Ｖｘ／２）は、各領域ｂ～ｄにおいて、それぞれの左上端点を座標（Ｕ０、Ｖ０）としたときの座標を示している。この座標の取り方については、後述にて数値例を挙げて説明する。Ｐ２は、２次のウェーブレット係数の高周波成分である各領域ｂ～ｄに、１つずつ存在している。Ｐ２の座標値は、画素Ａの座標値ｘ、ｙをそれぞれ４で除算した値となり、Ｐ２の座標は、図１４（ｂ）に示すように（Ｕｘ／４、Ｖｙ／４）となる。なお、除算した値が整数ではない場合、小数点以下を切り捨てるものとする。また、座標（Ｕｘ／４、Ｖｙ／４）は、各領域ｂ～ｄにおいて、それぞれの左上端を座標（Ｕ０、Ｖ０）としたときの座標を示している。Ｐ３は、３次のウェーブレット係数の高周波成分である各領域ｂ～ｄに、１つずつ存在している。Ｐ３の座標値は、画素Ａの座標値ｘ、ｙをそれぞれ８で除算した値となり、Ｐ３の座標は、図１４（ｃ）に示すように（Ｕｘ／８、Ｖｙ／８）となる。なお、除算した値が整数ではない場合、小数点以下を切り捨てるものとする。また、座標（Ｕｘ／８、Ｖｙ／８）は、各領域ｂ～ｄにおいて、それぞれの左上端を座標（Ｕ０、Ｖ０）としたときの座標を示している。Ｐ４は、４次のウェーブレット係数の高周波成分である各領域ｂ～ｄに、１つずつ存在している。Ｐ４の座標値は、画素Ａの座標値ｘ、ｙをそれぞれ１６で除算した値となり、Ｐ４の座標は、図１４（ｄ）に示すように（Ｕｘ／１６、Ｖｙ／１６）となる。なお、除算した値が整数ではない場合、小数点以下を切り捨てるものとする。また、座標（Ｕｘ／１６、Ｖｙ／１６）は、各領域ｂ～ｄにおいて、それぞれの左上端を座標（Ｕ０、Ｖ０）としたときの座標を示している。Ｐ５は、４次のウェーブレット係数の低周波成分である領域ａ内に存在している。Ｐ５の座標値は、画素Ａの座標値ｘ、ｙをそれぞれ１６で除算した値となり、Ｐ５の座標は、図１４（ｅ）に示すように（Ｕｘ／１６、Ｖｙ／１６）となる。なお、除算した値が整数ではない場合、小数点以下を切り捨てるものとする。また、座標（Ｕｘ／１６、Ｖｙ／１６）は、領域ａにおいて、左

上端を座標（Ｕ０、Ｖ０）としたときの座標を示している。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９２】
図１５において、ウェーブレット逆変換部１４は、取得されたミップマップレベルＬに１を加算する（ステップＳ２０２１）。ステップＳ２０２１の次に、ウェーブレット逆変換部１４は、画素Ａの座標値ｘ、ｙをそれぞれ２で除算し、読み出すべき係数Ｐ１の座標（Ｕｘ／２、Ｖｙ／２）を算出する（ステップＳ２０２２）。但し、除算した値が整数ではない場合、小数点以下を切り捨てる。ステップＳ２０２２の次に、ウェーブレット逆変換部１４は、ステップＳ２０２１で求めた値（Ｌ＋１）と同じ次数のウェーブレット係数に対し、その高周波成分である各領域ｂ～ｄから、係数Ｐ１（Ｕｘ／２、Ｖｘ／２）をそれぞれ読み出す（ステップＳ２０２３）。ステップＳ２０２３の次に、ウェーブレット逆変換部１４は、ステップＳ２０２３で読み出したウェーブレット係数の次数が、メインメモリ２に記憶されたウェーブレット係数が示す最高の次数（Ｌ＋Ｍ）と一致するか否かを判断する（ステップＳ２０２４）。今、ステップＳ２０２３で読み出したウェーブレット係数の次数は（Ｌ＋１）であるので、ステップＳ２０２４ではＮｏと判断され、処理はステップＳ２０２５に進む。ステップＳ２０２５において、ウェーブレット逆変換部１４は、ステップＳ２０２３で読み出したウェーブレット係数の次数を１つ繰り上げる（ステップＳ２０２５）。ステップＳ２０２３で読み出したウェーブレット係数の次数は（Ｌ＋１）であるので、ステップＳ２０２５の処理により、次数は（Ｌ＋２）となる。ステップＳ２０２５の次に、処理はステップＳ２０２2に進む。ステップＳ２０２2において、ウェーブレット逆変換部１４は、係数Ｐ１の座標値ｘ／２、ｙ／２をそれぞれ２で除算し、読み出すべき係数Ｐ２の座標（Ｕｘ／４、Ｖｙ／４）を算出する。